

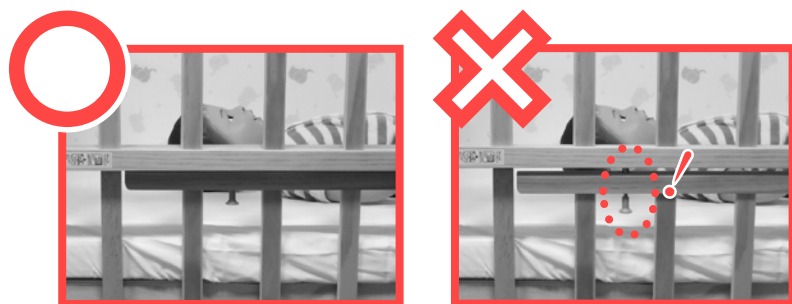


事故防止のポイント

木製ベビーベッドによる乳児の窒息事故を防ぐために

● 扉がロックされているか必ず確認！

収納部分の扉を開け閉めするたびに、扉を手で引っ張るなどして、扉のロックが掛かっていることを必ず確認してください。扉が開かないように、収納部分の上枠と扉をひもで縛るなど、簡単に開かない工夫も有効です。



● 扉のロックを掛けることを習慣にしましょう。

子どもの月齢が低く、床板を高くしているため収納部分の上枠より敷具が上にある場合でも、子どもが成長していくに連れて床板を下げて使用することもあるので、ロックを習慣にすることが大切です。

● 収納部分の扉のロックが壊れていたら直ちにベビーベッドの使用を中止してください。

ベビーベッドの構造を確認して事故防止のポイントの実践を！！



本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センター公式サイトに掲載しています。
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

公式サイト「くらしの危険」コーナー
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>



●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ● 2020年 1月発行
イラスト：川崎 敏郎

くらしの危険

Number
353

木製ベビーベッド

枠と敷具の間で乳児の窒息事故が発生！

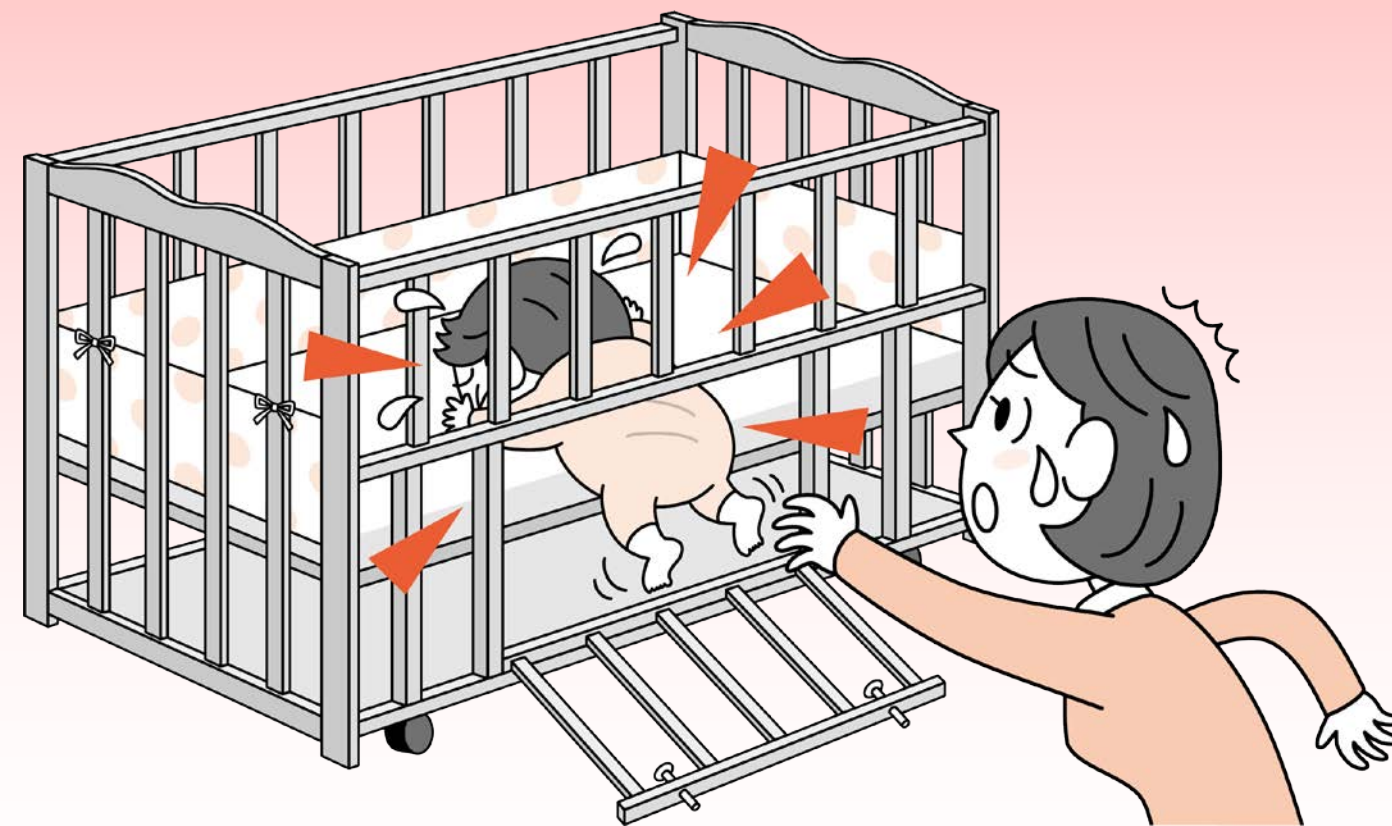
収納部分のある木製のベビーベッドの使用時、収納部分の扉が不意に開いたために、乳児の頭部が敷具と収納部分の上枠の隙間に挟まって窒息し、死亡あるいは重体に陥ったという重大事故等※1が2019年6月及び9月に2件発生しました。

事故が起こったベビーベッドには共通した構造があり、収納部分の扉のロックが不完全であったことで事故が起きたと考えられました。

お使いのベビーベッドの構造を確認し、事故防止のポイントを実践してください。

事故が起こったベビーベッドの構造

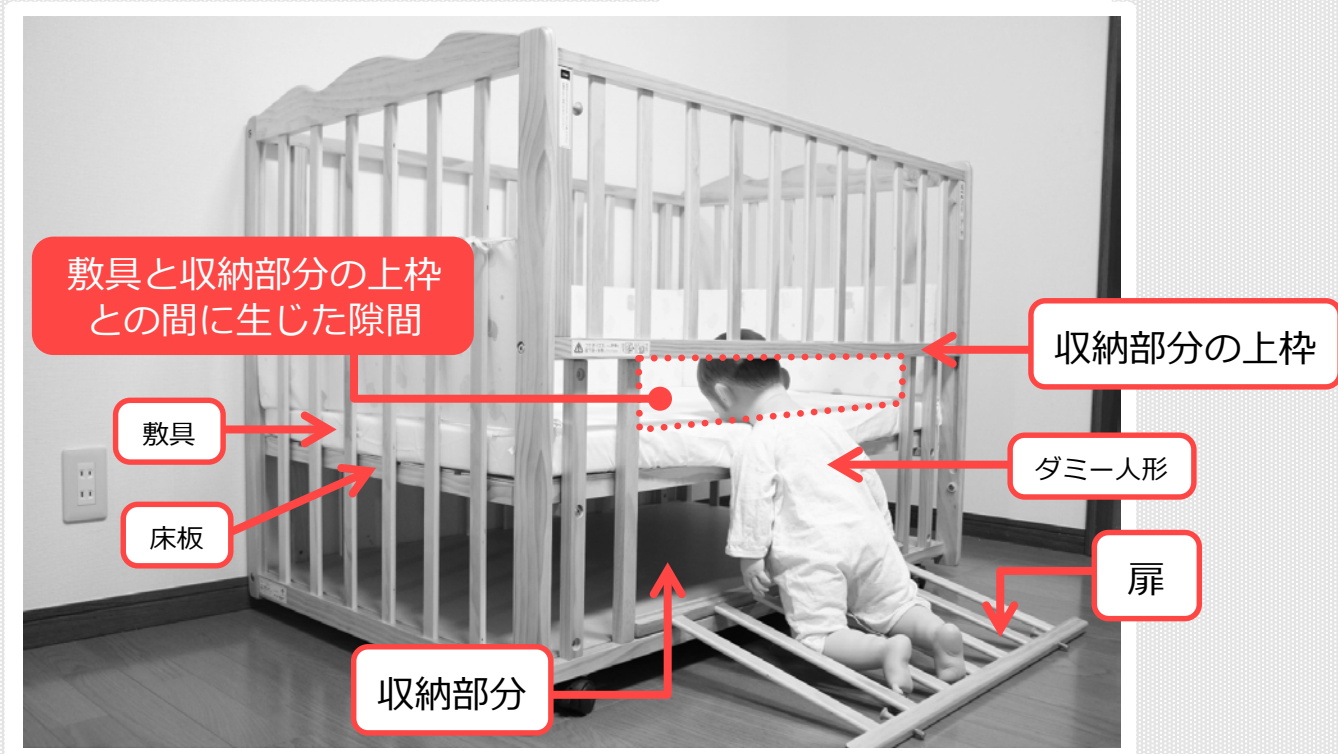
- ① 木製ベビーベッドの下部に**収納部分**がある
- ② 収納部分には**扉**が付いている
- ③ **床板の高さを調整**できる



※1：消費者安全法（平成21年法律第50号）第2条第7項に規定されている。

木製ベビーベッドの収納扉による乳児の窒息事故

図1. 事故発生時のイメージ



事故の状況

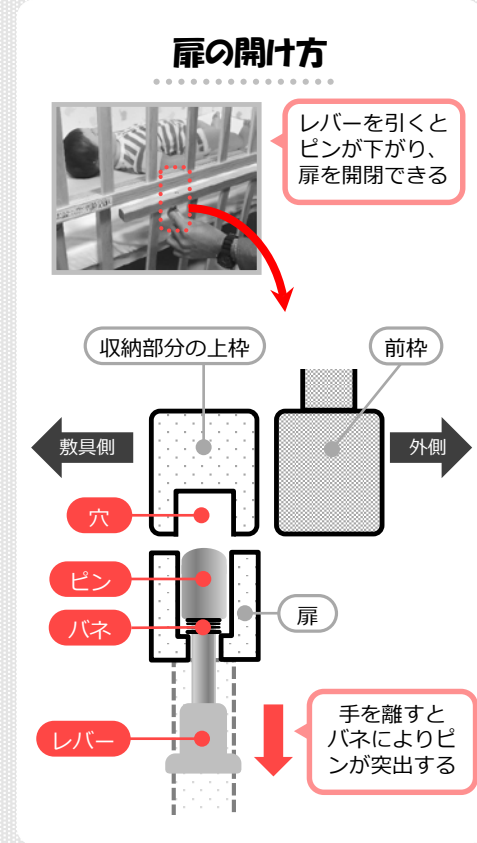
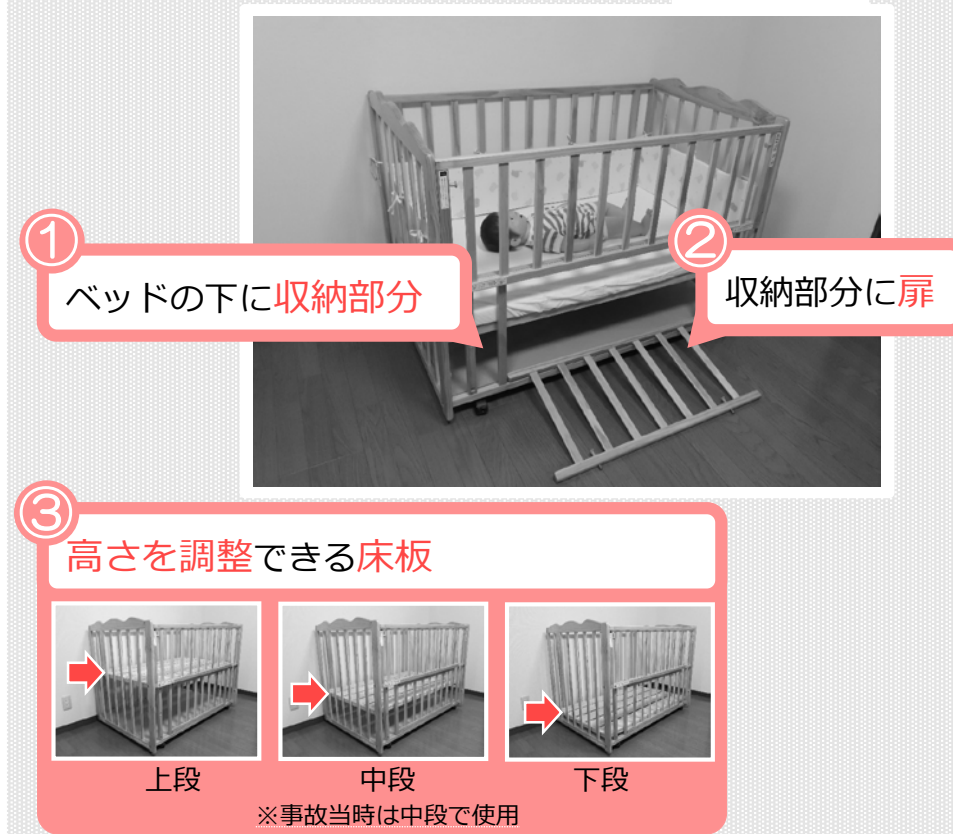
保護者が、当該ベビーベッドに子どもを寝かせて別室に移動後、子どもの様子を見に戻った。保護者が子どもを発見したときには、当該ベビーベッドの収納部分の扉が開いており、敷具と収納部分の上枠の隙間から、子どもは足から肩までがベッドの外に出て、頭部はベッド内でうつ伏せで、意識及び呼吸の無い状態だった。

保護者は、事故前には収納部分の扉は閉じていたと認識していた。

事故が起こった木製ベビーベッドの構造

2件の事故は、原因となった木製のベビーベッドの構造が3つの点で類似しており、同様の状況で発生しました。

図2. 構造



木製ベビーベッドを調べました

- 図2のベビーベッドと同構造のものを購入し、外観の観察と、事故から考えられる状況の再現テストを行いました。
 - テスト対象商品購入：2019年10月
 - テスト期間：2019年10月

扉の構造による問題点

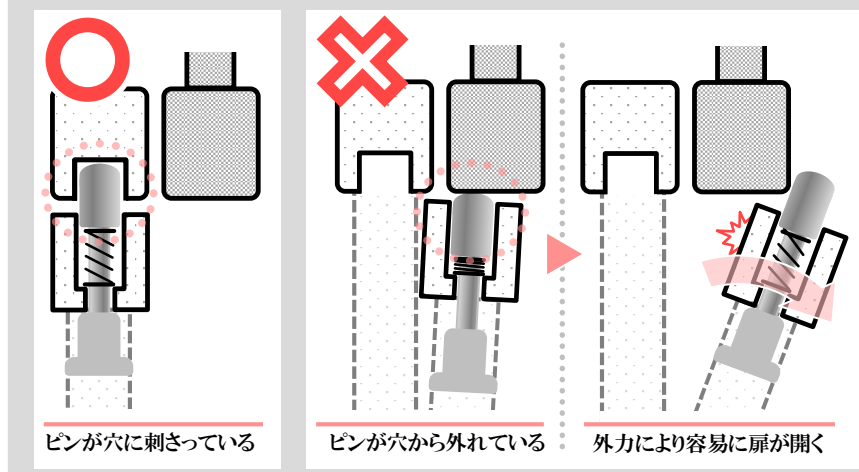
収納部分の扉は、ロックが不完全でも一見するとロックされているように見えてしまうことがわかりました。

○ ロックされている

× ロックが不完全



ロックが不完全で起こることとは？



事故の再現テスト

8～9カ月相当の乳児ダミー人形（身長約66cm、体重約8kg、頭囲45cm、胸囲44cm）を使い、ロックが不完全であったと仮定して再現テストを行いました。



⚠ PSC、JIS、SGマークが貼付された製品でも、扉のロックが不完全だと事故が起こる可能性があります